

飲水思源

町長

松岡市郎

最高の蓄電器と薪文化

ある通夜の席上、故人の成仏を祈りながら、「健康と薪（まき）文化」に話が及んだ。だいたい6歳を過ぎた男子が輪になって話すことといえば、「健康」の話が中心となるのだが…。

今、光エネルギーの利活用の視点から太陽光エネルギーの発電が増えているが、もう一つ、木材の活用という選択肢がある。樹木は光エネルギーを活用し、大気中の二酸化炭素と水によって成長する。その成長を促進するため間伐が必要となる。この間伐材を薪に変えて利用するのが薪文化だという。

「薪は最少のコストで作ることができ最高の蓄電器である」と自称・薪文化協会の代表氏が持論を展開する。

「薪にして軒下などに積み上げておくと、ストーブがあれば腐らない限りいつでも熱エネルギーに変換できる。この自然に優しい薪文化の復活と普及が大切なのだ」と説く。代表氏いわく、「ここ30年、わが家の暖房はすべて薪である。この薪文化が健康な体を維持している」。

一人の親族が「薪で部屋の暖房を取り、残った燠（おき）を囲炉裏へ入れ、お湯を沸かしてお茶を飲み、たばこの火がほ

しくなったら火ばしで燠をつかんでたばこの先へ…。つまり湯沸しいらす、ライターいらす」と徹底した省エネぶりを語る。薪作りは、今夏に間伐材を長さ33センチほどに切り、それを割って、2年から3年間乾燥させる計画で、8トンの薪切りと薪割りに約1カ月間を要したそうである。「8トンあると8年は持つ」。

そこに代表の弟が口を挟んだ。「薪文化は暖を3回取れるのが良いところ」と。「1回目は薪切りと薪割り。2回目は薪運び。そして3回目は冬に室内で薪を焚（た）くことで、三度体が温まることを指している。「薪づくりは夏にするものではなく、もっと寒い晩秋あたりから始めるのが薪文化の真髄である」と。

だから「夏の暑い時期の薪づくりは邪道」と主張する。今度はそのお嫁さんが「石油暖房は肌を刺すような痛さを感じるが、薪は柔らかく最高」と言を重ねてきた。北国の炎豊かな暖のある生活、省エネのある暮らし、健康に良い楽しみ…と話は尽きない。

「町はもっと薪文化の復活と振興に力を注いでは」との提言で、検討に値するものと拝聴していた。

俳句

緑陰にそよぎし風を讃えあふ
なつかしき母の加減の豆ごはん
昼寝より覚めて媪のひとり言
焼き茄子の笑顔の夫は酒を酌む
半夏生朝の日課を楽しんで
出し忘れしまい忘れの夏座布団
昼寝覚め箆筭木目の物語
モノクロの記念写真の夏帽子
かたつむり大河の道をゆるり行く
座布団を二つに畳む昼寝かな
老鶯や緑深くて声ばかり
本殿は夜店の向こう遠くあり
もうひとりの吾の居たらし昼寝覚め
がんがんと冷えた部屋での雑魚寝かな
はち植えに身をひそめてやあまがえる
さびしさは石にもありて夏落葉
十葉の夢にも白く昼寝覚
五時間目サインコサイン昼寝中
掛け時計に未来きざませ昼寝かな

杉山 ひろのり
保科 なほ
徳光 吐苦
杉山 りつ
山口 佐知子
横田 則子
若田 久
高瀬 潤
石澤 清宏
澤田 久美子
松山 蓉子
三島 智
若田 郁
本田 咲
山内 みゆ
秋山 深雪
長谷川 きみゑ
小林 ろば
高橋 公花

